丹波市立竹田小学校長

食缶食器の後片づけ　「困っているから助けて」

先日、校務員さんが都合で１日お休みされました。いつもは、給食の各学年への配缶準備や、それぞれの学年が持ってくる食缶や食器の後片づけを手際よくやって頂いています。お休みの場合は、管理職や事務職員がその業務の対応をすることが多いのですが、今回、食缶などの後片付けを私一人で担当しました。

子どもたちが食べ終わって運んできた食缶と食器をコンテナの指定された場所、指定された順に並べて格納していくですが、次から次へとやってくる食缶食器に「校長先生、やったことなくてよく分からへんねやけど、〇年生の食缶ここでいいよね」と慣れない様子で片づけている姿をみた６年生の子が２人、「校長先生、〇年生は奥に入れて、手前に〇年生のを入れるやで」と教えてくれるだけでなく、次から次へと返ってくる食缶食器をどんどん片づけてくれました。６年生の子が片づけている様子を見ていた４・５年生の子たちも自分の学年の食缶を自分たちでコンテナに片づけてくれました。

次の日、校務員さんにその話をすると、「私の時も手伝ってくれる子はいますよ」と嬉しそうに話をしてくれました。

　学校の中の何気ない一コマですが、子どもたちがコンテナへの片づけなど、よく知っていることに驚きました。普段から校務員さんとよい関係ができているんだなと感じました。また、困っている姿を見て、助けてくれた子どもたちの優しさに触れた瞬間でもありました。